キャラクター名
影浦 煌夜（カゲウラ コウヤ）

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ エンジェルハィロゥ	ワークス	情報屋	カヴァー	商店主
オプショナル		年齢	25歳	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	飢餓	初期侵食率	30 %
出自	父親不在/母親	経験	喪失/幼馴染	邂逅	友人/ロヴェル・ヴァン・アレン

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	6	0	0			6
精神	2	0	0			2
社会	0	1	0			1

HP	24
行動値	14
(非装備時)	14
戦闘移動	19
全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	3		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：裏社会	5	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
拳銃	射撃	6r+3		3		
コンボ（0%～）	射撃	7r+2		9		
コンボ（100%～）	射撃	7r+2		15		
コンボ（160%～）	射撃	7r+2		18		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
母親	P 同情	N 無関心		
幼馴染/朝日奈 陽羽	P 幸福感	N 不安		
友人/ロヴェル・ヴァン・アレン	P 信頼	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ｺﾝｾ:ｴﾝｼﾞｪﾙﾊｨﾛｩ	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	-	
効果：	クリティカル値-LV（下限7）							
陽炎の衣	3	3	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	隠密状態　1ｼｰﾝLV回まで使用可							
見えざる死神	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	武器	-	射撃/対決	-	
効果：	判定ﾀﾞｲｽ+1　攻撃力+[LV×3]							
ピンポイントレーザー	1	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	ｼﾝﾄﾞ/対決	-	
効果：	装甲無視　ダメージ-[5-LV]							
フラッシュゲイズ	5	3	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	80↑	
効果：	判定ﾀﾞｲｽ-[LV×2]個　1ﾗｳﾝﾄﾞ1回							
ミスディレクション	2	5	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	-	
効果：	「対象:範囲」の攻撃対象を単体に変更　1ｼﾅﾘｵLV回							
天使の外套	1	-	ﾒｼﾞｬｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	光を操り、みずからの姿の上に別の外見を上書きする。							
天使の絵の具	1	-	ﾒｼﾞｬｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	光を屈折させることで、望む映像を大気中に投影する。							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

2020/12/19「ELIXIR」（GM：廉さん　PL：KaLさん、かんじさん、つきこさん、或）
2021/09/18「戻れぬ帰途からはじまる物語」（GM：廉さん　PL：つきこさん（龍臣くん）、或）

表向きはしがない商店「影浦商店」の主、その裏では裏社会と繋がり様々な情報を売っている男。
息をするように女性を口説き、風に吹かれる柳のように、のらりくらり飄々とした態度で人と接する。
卓操観念ぶっ壊れてて、酒もザル。
自称よろづ屋なので、駄菓子から生活用品、果ては武器から情報まで売る。なんなら自身の色も売る。
↓↓以下追記↓↓
「ELIXIR」後、陽羽と一緒に住み始めてからウリはやめた。黒須の手伝いで仲介や斡旋を引き受けることはある。

一人称：オレ　二人称：キミ、あなた
「やぁどうも、相変わらずお美しいッスね！」「やだなぁ、冗談ですってばぁ」
「ほら、オレって頭いいし？　モテるし？　やっかみぐらい引き受けてあげないとねぇ」

水商売の母の元に産まれ、父親は不明。幼い頃より母の同業者には見目と地頭の良さからチヤホヤされていたが、母親とは不仲だった。
馬鹿な母親を見下しており、彼女から愛情が欲しいと思ったこともない。名前も覚えていないほど、本当に興味がなかった。
女性の扱いに長けており、見目も喋りもよく相手には事欠かなかったため、中学・高校のときは知らない女性の家を転々としていた。
その際にキャバクラや風俗など女性の店の元締である黒須（クロス）を紹介され、小銭稼ぎに彼の仕事をチマチマ手伝うようになる。
黒須とはお互い信頼はしていないが使えはする、という完全にドライでビジネスライクな付き合いで、彼の小間使いは辞めたものの、未だに情報のやり取りで会うことがある。